

特別支援学級 自立活動学習指導略案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級2組）
6人（3年男子2人、女子1人、4年男子2人、6年男子1人）
指導者 久永 貴代美

1 活動名 自分の思いを伝えよう ～分からないとき・困ったとき～

2 活動の目標

- 友達と話し合ったり、役割演技を行ったりする中で、他者と一緒に関わり合いながら学習するよさを味わうことができる。
- 自分の思いを伝えるときの大切なポイント（「聞こえる声で」、「相手を見て」、「やさしく」）に気を付けて、友達とコミュニケーションを図ることができる。
- 自分ができるようになったことに気付いたり、友達と互いのよさを認め合ったりすることができる。

3 活動設定の理由

本学級の子供6人は、互いに仲よく遊んだり、学習したりする姿が多く見られる。しかし、特定の子供としか関係を築くことができず、自分の思いを伝えられないことがある。また、慣れない人や環境によっては、過度の不安や緊張で、自分の言いたいことを我慢したり、困っていることを伝えられなかったりすることもある。さらに、自分に自信がもてずに進んで活動できなかつたり、友達のよさを認められず、一緒に活動できなかつたりする。

そこで、本活動では、まず思いの伝え方を例示した教師の役割演技（VTR）を視聴することで、大切なポイントに気付くことができるようにする。そして、教師や友達に自分の思いを伝える活動を多く取り入れることで、伝えることができたという満足感を味わうことができるようにする。その際、子供がこれまでに経験した課題場面を取り入れ、役割演技を行う。さらに、活動を振り返り、自分ができることに気付いたり、友達に自分のよさを認めてもらったりすることで、思いを伝えることができたという自信をもつことができるようにする。

この活動を通して、日常生活において自分の思いを伝えることのよさを味わうことができ、更に安心して様々な活動に取り組むことができるようになることを考える。このことが、自己肯定感を高め、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲につながり、生活をより豊かにしていくものと考えられる。

4 本時（5/5）

これまで子供たちは、自分の思いを伝えるときの大切なポイント（「聞こえる声で」、「相手を見て」、「やさしく」）を知り、ポイントを一つずつ意識しながら役割演技を行ってきた。

(1) 目標

大切なポイントに気を付けて、友達と一緒にすごろくをすることができる。

| | | |
|------------------|--------|-----------------------------------|
| 個 人 目 標 | A児（3年） | 自分から進んで、自分の思いを伝えることができる。 |
| | B児（3年） | 相手の目を見て、自分の思いを伝えることができる。 |
| | C児（3年） | やさしく、自分の思いを伝えることができる。 |
| | D児（4年） | 聞こえる声で、自分の思いを伝えることができる。 |
| | E児（4年） | 進んで自分の思いを伝え、友達と最後まで活動に参加することができる。 |
| | F児（6年） | 進んで、やさしく自分の思いを伝えることができる。 |

(2) 指導に当たって

ア 「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

(ア) 子供の実態に応じた「関わり合い」の設定

「関わり合い」についての実態として、自分がしてほしいことや困ったことを教師や友達に伝えることが難しいという課題がみられる。そこで、本時においては、ゲーム（「自分の思いを伝えようすごろく」）の中で役割演技をすることで、依頼・要求の仕方について学ぶことができるようにする。

(イ) 子供同士の「関わり合い」を充実させるための手立て

子供同士の「関わり合い」を充実させるために、ゲームの際に、教師が見本を見せたり、話型カードを提示したりすることで、安心して活動に参加することができるようにする。

イ 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容2】

(ア) 学びの自覚を促す手立て

「活動する」過程において、子供が決めた個人のめあて（「今日頑張ること」）に照らし合わせ、板書に花丸カードを貼りながら学習の達成状況を価値付けることで、今できていることを実感することができるようにする。

(イ) 次につなぐ手立て

本活動を振り返る際に、「今まで、学習したことを交流学級でも使うことができそうかな。」と言葉掛けを行うことで、「分からないときや困ったときには、勇気を出して伝えるぞ。」という思いをもつことができるようにする。

(3) 展開 □ 教師の言葉掛け □ 予想される子供の反応 聞く、話す、見る、動く 「関わり合い」を充実させるための活動 ◆評価に関すること ☆はICT活用上の留意点

| 過程 (分) | 主な学習活動と予想される子供の反応 | 子供に応じた具体的な手立て |
|-----------------|--|--|
| つかむ・見通す (10) | <p>1 学習の流れを確認する。</p> <p>2 前時までの学習について振り返る。</p> <p>3 自分の思いを伝えるときの大切なポイントを確認する。 ・聞こえる声で ・相手を見て ・やさしく</p> <p>4 本時のめあてを確認する。 大切なポイントに気を付けて、「自分の思いを伝えようすごろく」をしよう。</p> <p>(1) めあてを声に出して読む。 (2) 個人のめあて(「今日頑張ること」)を決める。</p> <p> ぼくは、特に「聞こえる声で」に気を付けてすごろくをするぞ。</p> | <p>○ 学習の流れを確認し掲示することで、本時の学習に見通しをもって参加できるようにする。</p> <p>○ 「活動マップ」を提示することで、前時までの学習を想起し、本時の活動へ意欲をもつことができるようにする。</p> <p>○ 「自分の思いを伝えるときの大切なポイントは何だったかな。」と問い掛けを行ったり、絵カードを提示したりすることで大切なポイントを想起することができるようにする。</p> <p>○ 「できたかなカード」(自己評価・相互評価カード)を活用することで、個人のめあて(「今日頑張ること」)を明確にもつことができるようにする。</p> <p>○ ゲームの進め方やルールを提示することで、見通しをもって活動に参加できるようにする。</p> <p>○ 役割演技を行う前に、発表の仕方について話し合う場を設けることで、多様な考えに触れたり、落ち着いて発表したりすることができるようにする。</p> |
| 活動する (25) | <p>5 ゲーム(「自分の思いを伝えようすごろく」)をする。 【「関わり合い」(依頼・要求、称賛)】</p> <p>(1) ゲームの進め方やルールを確認する。聞く</p> <p>(2) ゲームをする。 ・ 3人1組の2チームで行う。 ・ さいころをふり、出た目の数だけ進み、書かれている日常生活における課題場面の役割演技をチームで発表する。動く</p> <p>・ 相手グループの発表を見て、称賛したりアドバイスをしたりする。 見る 話す</p> <p> 友達のグループの発表をよく見て、大切なポイントに気を付けることができていたか伝えましょう。</p> <p> ○○さんは、相手を見て言えていたよ。</p> <p> ○○さんは、もう少し大きな声で言えるといいね。</p> | <p>A児： ゲームの前に教師が見本を見せたり、グループで練習したりすることで、安心して自分の思いを伝えることができるようにする。</p> <p>B児： 発表の前に、大切なポイントを確認することで、相手を見て役割演技ができるようになる。</p> <p>C児： 声のものさしカードを提示することで、声の大きさを調節することができるようにする。</p> <p>D児： 教師と一緒に課題場面を確認することで、自信をもって聞こえる声で発表することができるようにする。</p> <p>E児： ゲームの進行係を任せることで、最後まで意欲をもって活動に参加できるようにする。</p> <p>F児： 頑張りやできていることをその都度称賛することで、意欲的に活動に参加することができるようにする。</p> |
| 振り返る (10) | <p>6 本時の学習を振り返る。 (1) 自分で振り返る。 (2) 友達のよかったところを伝える。話す</p> <p>7 実生活で生かしたいことを考え、本活動のまとめをする。</p> <p> これからも先生や友達と話すときは、相手を見て話したいな。</p> <p> 分からないことがあるときは、やさしい言葉で友達に聞きたいな。</p> | <p>○ 相手グループの発表を見て感想を伝える際に、「いいね」や「アドバイス」の札を出すことで、自分の考えを明確にすることができるようにする。</p> <p>◆ 適宜、個人のめあての達成状況を評価する(花丸カードを貼る)ことで、子供たちが学びを自覚することができるようにする。</p> <p>☆ 活動動画を視聴し、個人のめあて(「今日頑張ること」)が達成できたか視覚的に振り返ることで、学びを自覚することができるようにする。</p> <p>◆ 「できたかなカード」(自己評価・相互評価カード)を活用することで、個人のめあて(「今日頑張ること」)が達成できたかを自己評価できるようにする。また、互いの頑張りやよさを伝え合うことができるようにする。</p> <p>○ 今までに経験した生活場面を絵カードで提示し、「学習したことを交流学級やおうちで使うことができそうかな。」と言葉掛けを行うことで、他教科等の学習や実生活につながることができるようにする。</p> |

あすなろ学級2組「自分の思いを伝えよう ～分からないとき・困ったとき～」
本時(5/5)における「関わり合い」想定シート

「関わり合い」の目的

- 大切なポイントに気を付けて、役割演技をするため。
- 友達の発表のよかったところを伝え合うため。

「関わり合い」の方法

| | | | |
|----|--------------|-------------|---------|
| 形態 | グループ(3人), 全体 | 思考を可視化する手立て | 意思表示カード |
|----|--------------|-------------|---------|

「関わり合い」で期待される子供の姿

| | |
|-----|-----------------------------------|
| A 児 | 自分から進んで、自分の思いを伝えることができる。 |
| B 児 | 相手を見て、自分の思いを伝えることができる。 |
| C 児 | やさしく、自分の思いを伝えることができる。 |
| D 児 | 聞こえる声で、自分の思いを伝えることができる。 |
| E 児 | 進んで自分の思いを伝え、友達と最後まで活動に参加することができる。 |
| F 児 | 進んで、やさしく自分の思いを伝えることができる。 |

「関わり合い」を充実させるための四つの活動と本時において身に付けさせたいスキル

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 聞 く | すぐろくの進め方やルールを集中して聞く。 |
| 話 す | 友達の発表のよかったところを相手を意識して伝える。 |
| 見 る | 相手グループが、大切なポイントに気を付けて役割演技ができているかを見る。 |
| 動 く | 友達と一緒に協力して、役割演技を行う。 |

「関わり合い」の想定

5 ゲーム(「自分の思いを伝えようすぐろく」)をする。
【「関わり合い」(依頼・要求, 称赞)】

順番を決めよう。くじで決めていいかな。
※ 順番を決める。(全員)



先にくじをひいてもいいよ。
※ 相手に順番を譲る。(C・D・F児)

ありがとう。(A・B・E児)



この言い方でやってみようよ。(C・E・F児)

そうだね。いいね。
※ 友達の考えを受け入れる。(A・B・D児)



※ 聞こえる声で伝える。(D児)

※ 相手を見て伝える。(A・B児)

※ やさしく伝える。(C・E・F児)

頑張ったね。よかったよ。
※ 友達の頑張りを認め合う。(全員)



友達の発表をよく見て、大切なポイントに気を付けることができていたか、伝えましょう。

△△さんは、やさしい言い方で伝えることができていました。
※ 自分の考えを伝える。(A・B・D・E児)



声が聞こえなかったもので、もう少し大きな声ではっきり伝えた方がいいなと思いました。
※ 友達にアドバイスをする。(C・F児)

教師の手立て

- 順番を決めるためのくじを準備しておくことで、子供たちが自分たちで順番を決めることができるようにする。(全員)
- 役割演技を発表する前に、発表内容を選択しグループで練習する場を設定することで、内容を確認して安心して発表できるようにする。(A・D児)
- 友達の発表を見て、「いいね」や「アドバイス」の札を出すことで、自分の考えを明確に伝えることができるようにする。(A・B・D・F児)
- 友達の意見を受け入れられず、活動の参加が難しいときには、離れた場所で気持ちを落ち着かせてから参加することができるようにする。(E児)
- 準備から片付けまでみんなでできたことを称赞することで、協力して活動できたという達成感を味わうことができるようにする。(全員)

